

平成28年度
第3回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成28年12月13日（木） 13:30～17:00

場所：コラッセふくしま 4階 中会議室

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環資源基盤技術研究所 室長	倉持 秀敏
京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
東北大学 大学院環境科学研究科 研究科長 教授	吉岡 敏明
京都大学 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔
環境省福島環境再生事務所 調整官（廃棄物担当）	小野寺 秀明
環境省福島環境再生事務所 減容化施設整備課 課長	小島 啓之
オブザーバー	
福島県生活環境部一般廃棄物課 主幹	富永 幸宏
福島県相双地方振興局県民環境部 副部長兼環境課長	國井 芳彦

議事要旨

I 本日の議事

1. 檜葉町対策地域内廃棄物処理業務（減容化処理）
2. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）
3. 飯館村蕨平地区対策地域内廃棄物等処理業務（減容化処理）

II 検討内容

1. 檜葉町対策地域内廃棄物処理業務（減容化処理）
冒頭、JFE・飛島特定業務共同企業体（以降、JFE・飛島JVと記載）より、業務内容について説明があった。

（1）主灰の処理方法について

委員より、主灰は一旦ヤードに貯留後に処理するのはなぜかとの質問があった。JFE・飛

島 JV より、主灰は放射性物質濃度またはセシウム 137 溶出濃度によって処理方法が違うためであるとの回答があった。

(2) 磁性物、処理不適物について

委員より、主灰処理の過程で発生した磁性物、処理不適物をどのようにしているかとの質問があった。JFE・飛島 JV より、建屋内にて保管しているとの回答があった。

(3) 処理対象物の低位発熱量と助燃について

委員より、処理時に助燃バーナを使用しているかとの質問があった。JFE・飛島 JV より、現状の処理対象物の低位発熱量が低いため、助燃バーナを使用しているとの回答があった。

(4) 作業員の安全対策について

委員より、作業員の安全対策をどのように行うかとの質問があった。JFE・飛島 JV より、重機との錯綜箇所では重機へのセンサー設置、重機の可動範囲を制限するブロックの設置等の対策を講じるとの回答があった。

2. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化処理）

冒頭、三菱・鹿島共同企業体（以降、三菱・鹿島 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 緊急時の対応について

委員より、災害等の緊急時等における運転制御での誤操作をどのように防止するかとの質問があった。三菱・鹿島 JV より、災害時等にプラントの安全停止の際の誤操作を防止するため、ボタン操作ひとつで停止工程を行うとの回答があった。

(2) 粉じん飛散対策について

委員より、焼却施設内での粉じん飛散対策をどのように講じているかとの質問があった。三菱・鹿島 JV より、建屋内の負圧管理、出入口扉の二重化による外部への粉じん飛散防止対策を講じているとの回答があった。

(3) フレキシブルコンテナについて

委員より、焼却残さを収納するフレキシブルコンテナが万が一破損した場合の対策をどのように講じているかとの質問があった。三菱・鹿島 JV より、フレキシブルコンテナは灰保管施設内に保管しており、万が一破損しても灰保管施設内の空気は HEPA フィルタを通じて排気するため、外部への漏出はないとの回答があった。

(4) 排水処理について

委員より、主灰処理時に発生する排水はどのように処理するかとの質問があった。三

菱・鹿島 JV より、排水は側溝から回収し、ろ過後に焼却炉内に噴霧し処理するとの回答があった。

3. 飯館村蕨平地区対策地域内廃棄物等処理業務（減容化処理）

冒頭、IHI 環境・日揮・熊谷組 廃棄物等処理業務共同企業体（以降、IHI・日揮・熊谷組 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 汚泥の混合割合について

委員より、焼却炉に投入するごみにおける汚泥の混合割合はどの程度かとの質問があった。IHI・日揮・熊谷組 JV より、1割に満たない程度であるとの回答があった。

(2) 地震発生時の状況について

委員より、11月下旬発生地震時の状況はどのようであったかとの質問があった。IHI・日揮・熊谷組 JV より、対応マニュアルに基づき、操作室でのモニター監視や各部点検を行い異常がないことを確認し、運転を継続したとの回答があった。

(3) 作業員の安全対策について

委員より、作業員の安全対策をどのように行うかとの質問があった。IHI・日揮・熊谷組 JV より、作業員の重機作業範囲への立入り禁止の徹底、重機の作業位置固定による重機移動での災害防止等を行っているとの回答があった。

(4) 経済性の評価について

委員より、2形式の異なる焼却炉での運営による経済性評価のためのデータを収集するよう要望があった。

以上